

静岡県における新品種・新技術の導入に向けた取組

(高収益作物次期作支援交付金実施要綱第4の2の(2)関係)

- ※ 交付金の対象となるのは、その取組を行う取組実施者（農業者）にとって新しい品種又は技術である場合に限り、（既に導入している品種・技術の面積拡大は、交付金の対象外です）
- ※ 関東農政局長からの承認日（令和2年8月21日）以降の取組が対象となります。ただし、承認日以前に導入される場合の経緯（各一覧表の下段参照）に該当する場合は、令和2年4月30日以降に実施した取組に遡り対象となります。

イ① 静岡県知事が定める新品種の導入における対象品種

No.	作物	品目	新品種	確認方法
1	野菜	いちご	‘きらび香’	作業記録、写真
2		わさび	‘伊づま’	
3	果樹	うんしゅうみかん	‘静岡早生’	購入伝票
4		中晩柑	‘静姫’	
5		キウイフルーツ	‘静岡ゴールド’	
6		キウイフルーツ雄品種	‘にじ太郎’	
7	花き	マーガレット（切花）	‘スパーレネード’	生産者組織が許諾料を支払ったことがわかる資料及び作業記録
8		マーガレット（鉢物）	‘ムーンライト’	
9			‘風恋香’	
10			‘ラブリフレッド’	
11			‘おぼろ月’	
12			‘ファイアクッカー’	
13			‘フリアルージュ1’	
14			‘エリメール’	
15	茶		-	‘しずかおり’
16		‘ゆめするが’		
17		‘つゆひかり’		
18		‘香駿’		

- ※) 承認日（令和2年8月21日）以前に導入される場合の経緯等
 イチゴ：早期出荷を目指す場合にあつては、8月に本ぼへ定植する必要がある。
 わさび：収穫を終えたほ場から順次、次期作の定植を行うため、5～6月に定植を行う作型がある。
 茶：苗の定植作業は一般に3月頃を実施するが、定植する苗のうち上記品種のように苗生産量が少ないものについては、早期に発注しなければ入手できない。このため、本事業の実施要綱施行日以降に実施した上記の新品種の導入に係る取組については、地方農政局長等からの承認前であっても支援対象とする。

【各品種・技術に関する問合せ先】

新品種、技術の内容については、最寄りの農林事務所にお問合せください。

静岡県賀茂農林事務所 地域振興課 ☎0558-24-2078	静岡県中遠農林事務所 生産振興課 ☎0538-37-2271
静岡県東部農林事務所 生産振興課 ☎055-924-2159	静岡県西部農林事務所 生産振興課 ☎053-458-7217
静岡県富士農林事務所 生産振興課 ☎0545-65-2194	静岡県農業再生協議会事務局 ☎054-221-2732
静岡県中部農林事務所 生産振興課 ☎054-286-9020	(静岡県経済産業部農業局 農芸振興課)
静岡県志太榛原農林事務所 生産振興課 ☎054-644-9223	

イ② 静岡県知事が定める新技術の導入における対象技術

静岡県が地域農業の実情を踏まえ重要と位置づけている新技術（野菜）

No.	分類	品目	技術	内容	研究データ	確認方法	振興計画
1	栽培管理	施設野菜	環境モニタリング又は複合環境制御技術を活用した生産性の向上	施設内環境をリアルタイムで環境モニタリングを行うこと又は複合環境制御技術を導入することにより、効率的な栽培管理が可能となり、生産性の向上及び高品質化を図る。 複合環境制御技術の要件 ：温度、湿度、CO2濃度、日照等の環境要因のうち、2つ以上を複合的に制御すること。	次世代施設園芸地域展開 促進事業成果 他	取組状況を作業記録（写真）及び資材購入伝票で確認（栽培面積＝交付面積）	P4, 5
2	病虫害防除	野菜全般	IPM新技術の導入	次に掲げるの技術のうち、2つ以上を組み合わせること。 ・イチゴ定植苗の蒸熱処理（県開発技術） ・イチゴ定植苗の炭酸ガスによるハダニ防除技術（県開発技術） ・紫外線UV-Bによるイチゴうどんこ病及びハダニ類の防除（県開発技術） ・赤色光照射と天敵カブリダニの併用によるメロンミナミキイロアザミウマの防除（県開発技術） ・天敵の利用 ・抵抗性品種（台木を含む）の導入 ・赤色ネットの導入	H28、H29、R1 あたらしい農業技術 他	取組状況を作業記録（写真）及び資材購入伝票で確認（栽培面積＝交付面積） ※今までIPMを導入していない農家がIPMに取り組む、又は既存の防除体系に新たなIPM技術を導入する場合に適用。	P7
3	栽培管理	イチゴ	省力・低コスト化技術（未分化苗定植技術）	定植後の本圃における育苗（苗増殖、管理）により省力化を図る。 ※「あたらしい農業技術」に沿った栽培管理によること	H28あたらしい農業技術	取組状況を作業記録（写真）及び資材購入伝票で確認（未分化苗定植面積＝交付面積）	P10
4	病虫害防除	シロネギ	転炉スラグ利用によるシロネギ黒腐菌核病の防除技術	転炉スラグの植え溝施用と農薬併用による防除効果の確保	H30農林技術研究所 研究成果写真集	取組状況を作業記録（写真）及び資材購入伝票で確認（栽培面積＝交付面積）	P13

5	病害虫防除	わさび	高品質わさびの生産力向上（BT剤によるアオムシ防除）	BT剤を3週間間隔のスケジュール散布により、アオムシの防除が可能となり、収量の安定化が図られる	H29成績概要集 成果写真集	薬剤購入伝票、散布実績（散布日及び散布園地が確認できるもの）	P18
6	病害虫防除	わさび	高品質わさびの生産力向上（根こぶ病発生軽減対策（パイプ栽培+pH改良剤））	石灰質資材の苦土セル3g/パイプ施用による作土のpH矯正により、根こぶ病発生が軽減でき、収量の安定化が図られる	H27成績概要集	資材購入伝票、散布実績（散布日及び散布園地が確認できるもの）	P18
7	病害虫防除	わさび	高品質わさびの生産力向上（ワサビクダアザミウマ防除）	適用拡大されたジノテフラン水溶剤（わさび緑風SG）は、ワサビクダアザミウマ防除が可能となり、収量の安定化が図られる	H30成績概要集	薬剤購入伝票、散布実績（散布日及び散布園地が確認できるもの）	P18

注）承認日（令和2年8月21日）以前に新技術が導入される場合の経緯等

- No.1 環境モニタリング・複合環境制御：本技術は、定植時から施設内環境の把握、制御を行うものである。このため、定植時期（イチゴ：9月以降、トマト：8月以降、周年生産する品目：随時等）に応じて、適切な時期に機器の発注・整備を行う必要がある。
- No.2 IPM技術の導入：当該品目において選択した各技術の導入時期に応じて、適切な時期に資材等の発注・導入を行う必要がある。
- No.3 イチゴ未分化苗定植：本技術は、高設栽培では7月下旬の切り離し後、土耕栽培では8月上～中旬の切り離し後に定植を行う作型である。
- No.4 転炉スラグによるシロネギ黒腐菌核病防除：本技術では、定植2～3週間前に転炉スラグを施用し土壌pHを矯正する。6月前後に定植する作型にあっては、5月に施用できるよう資材を調達する必要がある。
- No.5 BT剤によるアオムシ防除：アオムシの発生始期である6月頃から防除を開始する場合、当該時期までに資材を調達する必要がある。
- No.6 根こぶ病発生軽減対策：根こぶ病の発生盛期である7月頃までに防除が完了するよう、資材を調達する必要がある。

静岡県が地域農業の実情を踏まえ重要と位置づけている新技術（果樹）

静岡県果樹農業振興計画の第3 果樹の種類別の振興方針に位置付けられている技術のうち、新技術は次のとおりとする。

No.	分類	品目	技術	内容	研究データ	確認方法	振興計画
1	栽培管理	うんしゅうみかん	浮皮軽減剤（GP剤）の散布	ジベレリンとプロヒドロジャスモン の混用散布により、浮皮の発生を軽減する	H22あたらしい農業技術	薬剤購入伝票、散布実績 （散布日及び散布園地が 確認できるもの）	県果振計画 p15
2	病虫害防除	うんしゅうみかん	高品質安定生産栽培法（炭酸 カルシウム微粉末剤を用いた チャノキイロアザミウマ防 除）	炭酸カルシウム微粉末剤を散布する ことにより、チャノキイロアザミウ マ防除ができ、高品質安定生産が図 られる	H25成果情報	資材購入伝票、散布実績 （散布日及び散布園地が 確認できるもの）	県果振計画 p15
3	栽培管理	うんしゅうみかん 中晩柑	高品質安定生産栽培法（年1 回施肥）	肥効調整型肥料と土壌改良資材を組 み合わせた資材を用いることによ り、年1回施肥での高品質安定生産 が図られる	H29成果情報	資材購入伝票、散布実績 （散布日及び散布園地が 確認できるもの）	県果振計画 p15、16

注）承認日（令和2年8月21日）以前に導入される場合の経緯等

No.1 浮皮軽減剤（GP剤）の散布：11月中旬から収穫を開始する場合にあっては、9月の散布に間に合うよう、調達する必要がある。

No.2 炭酸カルシウム微粉末剤を用いたチャノキイロアザミウマ防除：6～7月に本剤の散布を行うため。

静岡県が地域農業の実情を踏まえ重要と位置づけている新技術（花き）

No.	分類	品目	技術	内容	研究データ・普及の位置づけ	確認方法
1	栽培管理	切花 (カーネーション)	EOD管理による生産性向上	冬季の日没後昇温管理(EOD昇温)により、燃料費の削減および収量増加を図る。	○静岡県伊豆農業研究センター【園芸学会発表】 ○平成30年度現地実証結果	取組状況を作業記録（写真）及び資材購入伝票で確認 (栽培面積＝交付面積)
2	栽培管理	切花 (キク、バラ、ガーベラ、カーネーション)	環境モニタリング（温度、湿度、CO2濃度、日射量、土壌・養液水分量、飽差のうち、複数の環境要因を選択）を活用した生産性の向上	リアルタイムな環境モニタリングを行うことで、効率的な栽培管理が可能となり、労働生産性の向上及び高品質化を図る。	○静岡県農林技術研究所【単年度試験研究成績】	取組状況を作業記録（写真）及び資材購入伝票で確認 (栽培面積＝交付面積)

注) 承認日(令和2年8月21日)以前に新技術が導入される場合の経緯等

No.1、2 EOD管理及び環境モニタリングに使用する機器：定植時から施設内環境の把握を行うものであるため、定植時期（カーネーション7月以降、キク、バラ、ガーベラ周年）から使用を開始する必要がある。

静岡県が地域農業の実情を踏まえ重要と位置づけている新技術一覧（茶）

No.	技術名	実施時期	開発年度	技術の概要	技術の重要性	確認方法
1	一番茶の米国輸出を可能とするI P M体系	通年	2018年	研究成果情報 (下記 URL) のとおり	交信攪乱剤と、選択性殺虫剤の組合せにより、病害虫の発生を抑えながら、米国の MRL をクリアすることができるため。	別添の研究成果情報（下記 URL）に掲載している防除暦（同防除暦に基づき各産地の指導機関が作成した防除暦含む）に沿った防除を、今年度から新たに行った記録
2	有機栽培茶に対応した病害虫管理技術	通年	2018年	研究成果情報 (下記 URL) のとおり	耕種的防除と、有機認証の規定上認められる農薬のみの組合せにより、茶の主要病害虫である炭疽病や、チャノミドリヒメヨコバイの発生を抑制することができるため。	防除記録において、今年度から新たに有機 J A S 規格別表 1 に掲載されている資材の範囲内で防除していることを示せる作業記録 なお、二番茶後剪枝は場合によって、次年度の一番茶の収量の減少を招くリスクがあるため、実施は必須ではない。
3	ロープ状製剤の新型ハマキコン-N	3月から10月までの期間	2015年	研究成果情報 (下記 URL) のとおり	ロープ状ハマキコンの設置により、農薬を使用せずに、茶の主要害虫であるチャノコカクモンハマキ及びチャハマキの発生を慣行防除区と同程度に抑えることができるため。	今年度から新たにロープ状のハマキコン-Nを設置したことを証明できる資料（購入記録及び茶園に設置されたハマキコン-Nの写真（茶園を囲う必要はない））

注) 静岡県内の茶の主要病害虫の発生が懸念される場合、以下の各病害虫の発生頻度の高い時期の前に早急に対策する必要がある。このため、上記の技術のうち、令和2年4月30日以降に実施したこれら主要病害虫への対応に必要な取組については、地方農政局長等からの承認日（令和2年8月21日）以前であっても支援対象とする。

- ・ チャハマキ：5月中旬、6月下旬、8月上中旬、9月下旬
- ・ チャノコカクモンハマキ：5月中旬、6月下旬、8月中旬
- ・ チャノホソガ：7月中旬、8月中旬
- ・ ヨモギエダシャク：5月中旬、7月中旬、8月下旬
- ・ ナガチャコガネ：6月中旬
- ・ カンザワハダニ：5月下旬
- ・ チャノミドリヒメヨコバイ：5月中旬、6月下旬、8月中旬、9月下旬
- ・ 炭疽病：5月中旬以降

※産地により発生時期は上記時期と異なる場合がある。